
言語研究センター共同研究

『良友』画報の研究

孫 安 石

中国近代史のなかで都市「上海」ほど特異な発展を成し遂げた街があるだろうか。上海は様々な顔をもつ。租界に代表される植民都市であり、中国共産党が成立した革命都市であり、中国人・欧米人・日本人・ロシア人などが同居する国際都市でもあった。

本共同研究は1926年～1945年の間、上海で発

行された『良友』画報の多様な内容を専門領域を超えた学際的な視点からとらえ直すことを目指すものである。上海で発行された『良友』画報に関する研究成果としては、1930年代に同雑誌の編集を担当した馬国亮が出版した『良友懐旧』（2002年、三聯書店）が最新の先行研究である。しかし、中国以外の国ではまだこの画報を全面的に分析し

た研究は発表されていない。本共同研究が組織された所以である。

1926年に創刊された同雑誌は、中国の政治、経済、社会、文化はもちろん、文学、広告、漫画などあらゆる分野を網羅している。とくに、この画報が創刊された1920年代はアジアで大衆消費社会とも言うべき社会現象が幅広く見られた時期で、映画や百貨店などが登場する時期とも重なる。

本共同研究はこの『良友』画報を精読する輪読会を続けるかたわら、2004年8月にはワークショップ「『良友』画報と上海」（上海）を開催し、2007年9月には『アジア遊学—特集号』（勉誠出版）として出版することができた。

また、2009年度には定例の輪読会のほかに2回の報告会を開催することができた。

【第1回】

日時：2009年7月24日（金）

場所：神奈川大学・横浜キャンパス17号館23

(一) 中村みどり氏「巖安生著『陶晶孫その数奇な生涯—もう一つの中国人留学精神史—』岩波書店、2009年)の書評。

(二) 趙怡氏「金子光晴・森三千代と上海について」

【第2回】

日時：2010年1月15日（金）

場所：神奈川大学・横浜キャンパス20号館422

(一) 菊池敏夫氏「上海の百貨店業界と近代中国」

(二) 今後の研究会運営について

研究会の中心を担っていた若手のメンバーも就職が決まり、京都国立博物館や中国・北京大学で各自の専門を生かした研究生活をスタートしている。2010年度には『良友』画報とアジアに関連する言説の研究を進めるほか、上海師範大学の都市文化研究所と共催するシンポジウムを開き、専門の論著を刊行することを目指したい。
